
 学 会 記 事

第 52 回新潟化学療法研究会

日 時 平成 25 年 6 月 22 日 (土)
午後 3 時 10 分～
会 場 ANA クラウンプラザホテル新潟
3F 飛翔の間

I. 一 般 演 題

1 リネゾリド耐性 MRSA 感染症の 1 例

橋本めぐみ・古川久美子・横山 和弘
町田 良子・草間 文子・堀川 良則
高野 操・大矢 洋*・田邊 嘉也**
新潟大学医歯学総合病院 検査部
新潟医療センター 外科*
新潟大学医歯学総合病院
感染管理部**

【はじめに】リネゾリド (LZD) は MRSA 治療薬であり、他の蛋白合成阻害薬との交差耐性がなく、耐性菌出現率が低い。これまでに本邦における LZD 耐性 MRSA の報告は 10 数例あり、今回当院で LZD 耐性 MRSA が分離されたので、臨床経過と細菌学的解析について報告する。

症例は 50 代、女性。2011 年 6 月、生体肝移植を施行した。2012 年 2 月の胆汁培養から MRSA が初めて分離され、LZD 投与が開始された。LZD による治療は約 9 か月間にわたり、同年 12 月に肝膿瘍と血液培養から LZD 耐性 MRSA が検出された。

【対象と方法】症例から分離された MRSA 5 株について、E テスト、微量液体希釈法による MIC 測定、Sma I 処理によるパルスフィールドゲル電気泳動法 (PFGE) を実施した。LZD の判定は CLSI M100-S22 の基準に従った。

【結果】LZD の MIC 値は、LZD 投与前株が 2 μ

g/ml であり、LZD 投与中株は 4 μ g/ml、投与終了後株が 16 μ g/ml、8 μ g/ml であった。E テストでは阻止円の境界が不明瞭で判定困難だった。また LZD 投与終了後株のコロニーは、投与前株と比較すると発育が遅く、微小であった。PFGE では、LZD 感受性株 3 株と LZD 耐性株 2 株の泳動パターンはよく似ていたが、耐性株では 290kb 付近バンドの欠落と 330 付近バンドの増強が観察された。

【まとめ】今回当院で初めて LZD の MIC が 16 μ g/ml、8 μ g/ml となる耐性株を検出した。今回の症例では、LZD の投与歴と PFGE による解析結果から、LZD 感受性の MRSA が患者体内において突然変異し LZD への耐性を獲得したと考えられる。LZD 使用の際には、耐性化を考慮して、頻回に薬剤感受性検査を実施し、監視を行う必要がある。

2 市中感染型 MRSA の最近の動向

山本 達男・岩尾 泰久・Ivan Reva

国際医学教育研究センター

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) には 2 種類のカテゴリーが存在する。一つは、1997 年から 1999 年に市中でみいだされた市中感染型 MRSA (CA-MRSA) で、もう一つは 1961 年以來の威となってきた院内感染型 MRSA (HA-MRSA) である。HA-MRSA の特徴は、① SCCmec II あるいは SCCmec III をもち、②多剤耐性である。日本では ST5/SCCmec II (New York/Japan クローン) が優勢である。一方 CA-MRSA の特徴は、① SCCmec IV あるいは SCCmec V をもち、②時に、Panton-Valentine ロイコシジン (PVL) 陽性で、③ペプチドサイトリジン (Psm α , Hld) を高発現する。米国では PVL と ACME が陽性の USA300 (ST8/SCCmec IVa) が優勢で、日本では ST8 CA-MRSA/J (ST8/SCCmec IV) が優性である。ST8 CA-MRSA/J は PVL と ACME が陰性で、SCCmec IV にコードされた Spj 表層タンパク (粘着因子?) と TSST-1 毒素を産生する (Iwao et